（別記様式第３号）

普及活動検討会実施報告書

美里農業改良普及センター
実施月日：令和２年８月２６日
実施場所：美里農業改良普及センター会議室
現地ほ場

１　検討内容

No	検　討　項　目
1 2 3	地域農業の維持・発展に向けて法人化した集落営農組織の経営安定化 地域の特色を活かした「吟のいろは」の産地化の実現 持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上

２　検討委員の構成

（単位：人）

区　分	人数	区　分	人数
先進的な農業者	1	生　活　者	
若手･女性農業者	2	学識経験者	1
市　町　村	3	マスコミ	
農業関係団体		民間企業	

３　委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
課題No. 1 地域農業の維持・発展に向けて法人化した集落営農組織の経営安定化	４．４	・対象の法人に対しては，細かいところまでの，指導情報提供がされていると思う。 ・当初の目的であった作業競合回避もうまくいっており，また，安定した取引先との契約も出来ており，良い成果が出ていると思う。この法人をモデルに，他の農家でもうまく取り入れられると良いと思う。 ・集落営農からの法人に身を置くものとして大変参考になる事例であった。特に大豆の中耕培土省略，狭畦栽培は興味深く，取り組みたい農法である。又，法人間のヨコのつながりを強化し，互いに経営の安定化を図っているところは見習いたい。 ・対象法人の求める方向性に支援できるよう，情報共有をしながら推進することで，いい結果がついてくると思う。 ・法人化後間もない経営体に対し，作業競合の回避や収益性向上による経営の安定化に着目した支援は，価値の高い取組である。美里町が取り組んでいる法人経営の安定化，土地利用型野菜の産地化や先行モデルとしての水平展開も期待できる。この取組の成果を他法人でも展開できるよう，そのノウハウを整理し，普及を図っていただきたい。 ・収益性の高い転作作物を作付けして，経営の安定化	・(農）タカギ農産は大豆転作をメインとした比較的小規模な法人経営で収益性の向上による安定経営を目指しています。 ・最終年度となる今年度は，情報共有・タイムリーな情報提供を心がけ，大豆と園芸作物の作業競合を技術的な面でクリアし，大豆収量の向上と園芸部門の規模拡大支援を図っているところです。 ・園芸作物のリレー生産，契約出荷における中心的な経営体として，法人間連携支援や土地利用型野菜の産地化支援を行っています ・経営評価を踏まえた上で経営モデルとして提示できれば良いと考えております。 ・第1回（8月）普及活動検討会はできるだけ現地活動を視察

		を図るというプロジェクト課題達成は順調に進んでいると思われる。 現地視察がなく口頭だけの説明では内容を理解できない部分もあった。	していただく内容としています。現地視察を行わない課題については，写真や図表等により可能な限りわかりやすく報告するよう心がけます。
課題No．２ 地域の特色を活かした「吟のいろは」の産地化の実現	４．３	・栽培の難しさ等から酒米は不足しているにも係わらず積極的な取り組みがされずにきていたように思う。「吟のいろは」により酒米不足が解消し，更には宮城県産日本酒の発展につながればと思う。	・宮城県産日本酒の発展につながるよう，良質な酒米供給に向け，積極的に支援して参ります。
		・今は，松山が中心での栽培がおこなわれていると思うが，他の地区での栽培取組みはあるか？	・令和2年産は加美町で20a作付しています。将来に向けて，他地域で栽培を希望する農業者向けに情報共有を行っていきます。
		・今後定着するであろう酒米として作ってみたい米だと感じた。酒米研究会の取り組みは良いと思ったが，酒米を作った経験の無いため，「うるち米と何が違うのか」等の説明がほしかった。	・酒米もうるち米に属しますが，一般的には大粒で，心白が発現する品種が酒造りに適すると言われています。
		・新品種の取組については，現場レベルでの栽培管理技術の確立が必須である。収量や品質の課題に対する取組手法や取組結果の分析，評価などが説明いただけるとよかった。	・「吟のいろは」は，本県の優良品種に指定されていないため，試験場で栽培試験を行っていません。現場での栽培管理技術の確立が必要となっているため，現地試験を行いながら技術を組み立てているところです。
		・生産技術を安定させることと併せ出口として，蔵元との「吟のいろは」の位置付けや「蔵の華」との差別化など，しっかりビジョンを共有することで，生産者も更なるやる気を引き出せると思う。	・今後も，蔵元や酒造組合との意見交換を継続し，ビジョン共有を図り，酒米の生産現場にも反映させていきたいと思います。
		・地域の特産として期待しているが，他の委員からもあったように販路開拓もしっかりできるとなおよいと思う。 ・酒米については販路が限定的であるため，品質や数量の目標設定は，販売を意識し，実需者のニーズの反映も必要と思われる。 ・「吟のいろは」は「蔵の華」と比べて心白が大きく，酒造りに向く米として今後期待が持て，栽培技術を確立することが必要と思われる。そして，早く多くの蔵元で使ってもらえるよう販売戦略を練るなどして，産地化の実現ができるように願っている。	・酒米の販売については，ほぼ全量が県酒造組合を通した蔵元との契約栽培となっているため，蔵元が求める酒造りに適した原料米を作れるよう支援して参ります。 農業者のアプローチとしては，売れる商品作りに向けた原料供給が主体となりますが，蔵元や関係部署とののビジョン共有を図り販売開拓にもつなげたいと思います。

課題No. 3 持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上	４．７	・当方顧問先でも近年収量減少に悩まされている。数値的裏付けのある具体的な指導の継続を期待したい。 ・どの作物にも言えることだが，栽培技術の向上・確立は常に課題になっているので，分かりやすいデータ等によって，誰でも品質・収量共に安定した作物を作れる仕組みができることにとても期待している。 ・涌谷町の小ねぎは生産面積，出荷量から市場での認知度も高いと考える。若手の参入もみられるということで，熟練生産者の栽培技術の水平展開に向けた取り組みは，産地の維持や更なる新規参入に対し効果が期待できる。 ・小ねぎの栽培も高齢化によって，年々栽培面積や収量が減っている現状である。このような中，「栽培技術の見える化」によってマニュアル化を図ろうとすることは，栽培技術の向上や安定化，収量の増加に結び付くと思われる。今後の活動に期待する。	・現在「栽培技術の見える化」実証ほでの各データや生産者の耕種概要等の収集を進めており、水管理や病害虫防除などを含めた現場の問題点等を整理している段階です。 今後も関係機関と連携しプロジェクト課題を進める中で，生産現場で役立つ栽培資料を提供できるよう取り組んでいきます。
		・データとの比較になりますが，部会の栽培統計があると比較しやすくなると思う。 例えば播種後の潅水時間とか収穫後の潅水時間等，一連作業のアンケートの統計をあると比較がしやすいと思う。	・各生産者の協力が必要であることから，今後部会と協議していきます。
		・こねぎに限らず全ての作物に共通する課題だと思う。こねぎをきっかけに管内全ての作物に普及していくと良いと思った。 ・現地視察先であった副部会長も若くやる気を持っており，新たな体制へスタートを切っている印象を持った。スマート技術も実証しており，今後に活かせるとても良い活動であると思った。スマート農業は，他の品目にも普及推進が必要であると思う。	・こねぎ以外の品目については今後課題整理を行い，現状を踏まえながら検討を進めていきます。 管内でも大型園芸施設におけるトマト栽培などでは，環境制御技術の取り組みが進んでおり，成果が上がっています。
普及計画や普及活動等についてのご意見・ご要望	－	・美里地域は普及センター及び町の支援により，集落営農の法人が比較的進んでいる地域と感じている。反面，法人側からは，法人化までは支援していただいたが，その後は･･･という声が上がっているのも事実である。我々も含め，法人化した後のフォローアップの取り組みを考えていきたい。 ・普及指導の報告全般において，目的，目標，課題，手段の流れが分かりづらい説明資料と感じた。取組１年目の活動の場合，難しいところもあると思うが，課題に対し講じた手段とその成果の分析，今後の活動と整理していただくと，活動の進捗もつかみやすいと思われる。	・法人化後の組織につきましては，関係機関や専門家等の御協力をいただきながら経営安定化，組織運営等の支援を進めて参ります。 ・第1回（8月）普及活動検討会は，活動の内容報告や現地活動（視察）の展開に重点を置いた報告となりました。第2回（R3年2月頃）では，普及指導活動の流れが，より理解しやすい報告となるように努めてまいります。 　さらに，得られた成果等は関係機関と共有，連携を図り，地域農業の振興に活用いたします。

		普及活動の評価に当たっては，評価の視点の各項目に沿った資料作成，評価表としていただくと評価しやすいと思われる。 普及活動の対象については，各地域の課題を捉え支援を展開されており，取組の成果を今後の普及活動に生かし，各農家の経営の発展や地域農業の振興につなげていただきたい。 ・「産金の地わくや」をＰＲする，「金のいぶき」の栽培技術の確立とブランド化実現のため，ご指導を賜りたい。	・「金のいぶきによる地域活性化支援」として本年度の重点活動に設定し，生産性及び品質向上による地域の活性化を支援しています。また，北部地方振興事務所の「みやぎ食と農県民条例推進圏域重点プロジェクト」と連携し，実需者ニーズへの対応，掘り起こしによりブランド化を目指す検討を行っております。